

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	5 月 12 日 ( 月 )	宇戸瑠美夏

## ● 実施計画

活動テーマ		
くもと雨についてしよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
朝の会を通して保育者と一緒にその日の天気を確認していることで「今日晴れてから公園行ける?」「雨降ってないから公園で遊べる」など天気について関心を持っている様子は見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	日々の戸外活動の際どのような天気の日公園や戸外で過ごしているか振り返る  「公園に行った日はどんな天気かな?」「公園で遊べる天気はどんな天気の日?」など子どもたちに問いかけ、天気について考えるきっかけ作りをする。  雲がどのように現れるのか、雨はどこから降るのかなど意見を子どもたちに聞き、曇りや雨について考える時間を設ける  「雲はどこからくるのかな?」「雲は何でできているのかな?」「雲はどんな形や色がある?」「雨はどこからくるのかな?」「雨は何でできているのかな?」など問いかけ、子どもが考えイメージしたことを言葉で伝える時間を作る	【環境設定】 ・室内で写真や図を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。  【準備物】 ・電気ポット ・透明のビニール袋 ・雲の写真集 ・雲・雨・雪の発生原理の図 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・写真や図を掲示するためのマグネットなど  ■参考資料 ・雲の写真集 (巻雲、巻層雲、巻積雲、乱層雲、高層雲、高積雲、積乱雲、積雲、層雲、層積雲、穴あき雲、レンズ雲、スーパーセル等) ・雲・雨・雪の発生原理の図
10:15-10:30	雲の写真をホワイトボードに掲示し、観察する  それぞれの雲について質問をし、「雲の形はどうか?」「今日の空にある雲と同じ雲はあるかな?」など雲の大きさや形の違いに注目出来るように丁寧に問いかけながら援助する。また一人ひとりの意見や考えを尊重しながら応答するようにする  グループで雲の写真を観察したことを子ども同士で考えたり、伝え合ったりする時間を作り、グループで話し合ったことを発表しそれぞれの意見をホワイトボードにまとめる。それぞれのグループで出した意見を聞いたり、保育者がホワイトボードにまとめることで様々な考えや意見があることを感じられるようにする  鍋とビニール袋を使った実験を見て雲と雨の発生について知る  「鍋の湯気をビニール袋に入れたらどうなるかな?」「ビニール袋の中に湯気は入るかな?」などの問いかけをし、予想や意見を出す場を設ける  鍋や湯気が熱いことや約束事を丁寧に知らせ、一定の距離を取りながら実験の様子を観察できるように安全面に配慮しながら進めるようにする	【事前準備】 ・鍋とビニール袋を使った実験を予め検証しておく。  【実験】 ①鍋の中にお湯を沸かす。 ②お湯が沸いたら、鍋の蓋を開け、湯気を放出する。 ③湯気が上がっている上に透明のビニール袋を広げ、湯気を受け止める。 ④ビニール袋の口を閉じ、中の湯気を観察する。 ⑤時間が経ち、湯気が水の粒となったら、ビニール袋の口を開け水滴を落とす。
10:30-10:45	湯気を入れたビニール袋に触れたり、ビニール袋の中を近くで観察する時間を設ける  湯気を入れたビニール袋の中に触れ、変化に気づけるように働きかける  「湯気を捕まえた袋の中はどう変わったかな?」「ビニール袋の中にできた水の粒はどうなるかな?」など考えや感じたことを発言しやすい雰囲気づくりや声掛けを行うように工夫する  雲、雨の発生原理の図を用いりながら水蒸気(湯気)が上にのぼり集まった粒が大きくなることで雲になること、集まった粒が重くなることで雨として落ちてくることを再度理解しやすいように説明する  「お家のお風呂の湯気はどうなるのかな?」「給食のスープから出ている湯気はどうかな?」など子どもの興味を引き出せるように声掛けを行うようにする	

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・今回の活動では雲・雨・雪の発生原理の図を見て理解を深める、写真の観察を通して様々な名前や形の雲があることを知る活動を行った。 ・様々な雲の写真を観察する時間を設け一人ひとりに質問していくことで考えや意見を引き出した。一人ひとりが自分の考えや感じたこと意見を持った上でグループで話し合いをし、子ども同士で発見や気づきについての意見交換を行った。 ・ビニール袋、鍋を使って水蒸気を発生させる実験を行い、日々の生活の中で発生する湯気や水蒸気の変化の仕方について実験を通して興味を深めていた。	【子どもの姿・声】 ・「雲は雪の場所からくる」「雨は川の水」「雨は水でできている」など自分なりの考えを発言することを楽しむ姿が見られた。 ・様々な雲の写真に興味を持って観察する姿が見られ、「この雲見たことある」「今日の雲と同じ雲がある」など実際に空を見ながら写真と比較することを楽しむことが出来ていた ・「雪が固まっているような雲があるね」「雨が降りそうな雲だね」など観察してグループで感じたことや考えたことを伝え合ったり、話し合ったりすることを楽しむ様子も見られた  【保育者との関わり】 ・「雲はどこからくるのかな?」「雨は何色かな?」など雲や雨に興味を持てるように問いかけを行うようにした ・観察するだけでなく、子ども自身が感じたことや考えたことを保育者や他児の前で自信を持って発言できる雰囲気を作るようにした

## ● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・導入として普段公園に行く日の天気について話す機会を作ることで天気に興味を持っている姿が見られ、本活動を曇りの日に取り入れ実際の雲を見たり、観察する時間を設けたことで雲への関心を広げて活動に取り組むことが出来ていた。 ・様々な雲の写真を観察し見比べる時間を設けたことで気づきや発見を楽しむ姿が見られ、興味を持つことが出来ていた。また散歩中や公園で「今日の雲は〇〇雲と一緒にだね」など雲について保育者や友達と会話を楽しみながら実際の雲を観察することへ関心を広げている様子も見られるようになった。 ・実験では危険な為ポットではなく鍋を使って実験を取り入れたがあまり湯気を発生させることが出来なかった。その為ビニール袋の中で起きている変化を分かりやすく視覚的に伝えることが難しかった。しかし袋の中に触れる時間を設けたことで変化に気づくことが出来ていたのが良かった。	はじめはじめてのわくわくの取り組みでも達は何をするのか興味深々で先生の話を聞いている姿があって印象的でした。雲がテーマで子ども達も身近に感じられ、戸外活動の一環としても取り組む事ができた事が活動の幅を広げたと思います。子ども達から色々な雲について、聞く時に子ども達の感じ方や想像力の広さに関心し、自分で考えた事や感じた事を伝える一歩になったかと思います。実験も取り入れる事でより興味を引き、分かりやすい内容だったとも思います。

実施クラス				実施日			実施保育者名
5	歳児	たいよう	組	8	月	12 日 ( 火 )	和田

## ● 実施計画

活動テーマ		
たべもの～野菜～ 野菜って何？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
家族で果物狩りを行ったり、祖父母の家で農作業を手伝ったりなど日頃から、食物についての関心が見られる。給食に入っている野菜などの名前に興味を持ち、保育者に聞く姿もあるが野菜に苦手意識がある子も多にいる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00	・野菜について知っていいことを問い掛け、子ども自身の言葉で伝える。 発言はホワイトボードにまとめる。	【準備物】 ・ホワイトボードに発言をまとめる。 ・野菜(とまと、ミニトマト、キュウリ、にんじん、ピーマン、トウモロコシ、なす、オクラ) ・包丁、まな板 ・虫眼鏡 ・画用紙 ・クレヨン
10:10	・実際に野菜を観察することを伝え、虫メガネの使い方を確認する。	
10:15	・触ったり匂いを嗅いだりして野菜を観察する。	【環境設定】 ・包丁を使う際には、子どもが近づかないようにし、切った後はすぐに片付ける。 ・虫眼鏡の使用方法は端的に確認する。
10:30	・野菜を切って中を観察し、そのままの野菜と断面を絵に描く。	
10:40	・観察での発見や感想を発表する。 発表の内容を描いた野菜の絵にまとめていく。	

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・実際に野菜を観察し、絵に描き気が付いたことを発表し絵に書き込み。 ・野菜を切った後も断面を触って見たり、虫メガネを使って観察をし種の違いについて意見を出し合った。 ・感触は子どもによって感じ方が違ったが、1人ひとりの感覚を受け止め、発言がしやすい環境を作った。	【子どもの姿、声】 ・本物の野菜を使う活動に喜んで見られる様子が見られ、興味を持って活動に参加していた。 ・野菜について知っていることに関しては「畑で出来る」「苦いのもある」など経験を元に発言をしていた。 ・種の違いに興味を持ち、「きゅうりの種は透明」「オクラは丸くてかわいい」「大きなトマトは種も大きくて、ミニトマトは種が小さい」など色々な種類を比較して観察を行っていた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちの気付きに耳を傾けながら、更に深く質問を投げかけることで興味を引きだし発展させて行った。

## ● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもの発言に対し、保育者が深く質問を投げかけることによって更に疑問が深まり、考える様子が見られた。 ・感触や匂いなど大人が感じている感覚と違うものがあったり、様々な表現のし方があり固定概念ではない色々な考え方があつたことに気が付いた。	野菜がテーマでこれも身近に見ている物を改めて考えてみる取り組みで取り組みやすかったと思います。実際に野菜を切ってみたりと、食育的な要素もあり、わくわくの取り組みとしての区別が難しくもありました。野菜に触れる事だけではなく、野菜の働きや野菜の構造についてより深く考える事やさらに子ども達が野菜について考える事等を科学的に引き出していけるとより深い学びはあるかと思っています。

実施クラス				実施日			実施保育者名
5	歳児	たいよう	組	10	月	22 日 ( 水 )	和田

## ● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 5つの色から虹をつくろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
探究保育の中で「光」に関する活動を行ってから「虹」に対する興味関心が深まっており、自由画帳に虹を描いたり戸外遊びの際に虹を探す様子が見られる。また、雨上がりなどに虹が出るのではないかと保育者に尋ねる子供がいる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:40	実際の虹を資料を見て色の順番を確認する。	<b>【準備物】</b> ・絵の具(赤・青・黄・白・黒) ・絵本 ・筆 ・パレット ・バケツ ・虹の塗り絵  <b>【環境設定】</b> ・絵の具を使って汚れることが予想される為、拭くものなどを用意しておく。 ・子供が自由に活動できるように必要な物を分かりやすく置いておく。 ・他児の作品を見て興味や関心を深められるように時間を設ける。
10:45	実際に使う絵の具を見て、どのように色を作って虹を描くかを考える。	
10:50	2人1組で色の制作を行う。	
11:20	作った色を使って塗り絵に色付けをして乾かす。	
翌日	他児の作品を見比べて気づきを共有する。	

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・虹の絵本を提示をして虹へのイメージを明確にする。 ・赤・青・黄・白・黒を使って虹に使う7色を作成する。 ・完成した色を使い虹の塗り絵を塗る。 ・翌日乾いてから他児の作品を観覧しながら、気づきや興味の共有をする。	<b>【子どもの姿】</b> 虹の色について絵本を見る前から話す子どもがいた。2人1組になって色の制作を行った為、他児とのコミュニケーション不足から思うような色が完成せず一人でやり直す児が数名いた。虹の他に空や雲を描く際に、イメージが子どもによって大きく異なっていた。

## ● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・虹の色を作る際に、色の混ぜ方についてのイメージが付いている児とそうでない児の作品では大きく差が開いたことから過去に学んだことを様々なことに応用していく力を保育者が引き出していかねばならないと感じた。	友達と協力しながら色を作り、制作していく事が個々に行うよりも難しい様子だった。友達とのやりとりや話し合う過程も経験する事で他の感性や意見にも気づいたり、何かを感じたりする事も大切ではと思う。その過程の部分も上手く先生達が問いかけていけるといいかと思う。虹についてはとても興味をもっていて、この取り組みを行う事でより日常の中の虹の存在も意識できるようになったかと思う。

実施クラス				実施日			実施保育者名
5	歳児	たいよう	組	2	月	10 日 ( 火 )	宇戸

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ おしごとをしてみよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
前回の活動の振り返りで、「どうすればお金は得られるのか」という問いが生まれ、その方法(働くこと、対価を得ること)に関心が高まっている。日常生活の中で、家族が仕事に出かけ、そこでお金を得ている様子などから、「働くこと」と「お金を得ること」の関係性に興味を持ち始めている。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の活動を振り返り、お金の量には限りがあること、どうすればお金がたくさん手に入るかを再確認する。</li> <li>・お金を得る方法について考え、意見をまとめる。</li> </ul>
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金は「働くこと」や「何かをすること」で得られることを伝え、疑似体験につなげる。</li> <li>・おしごとカードを提示して、内容を伝える。(例:おもちゃの整理、掃除など)</li> <li>・やりたいおしごとを選び、対価(模擬貨幣)を確認する。</li> <li>・おしごとを実践し、対価として模擬貨幣を受け取る。</li> </ul>
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしごとの体験で得た気づきや大変だったこと、お金を受け取った時の気持ちを発表する。</li> <li>・お金は「誰かの役に立つこと」や「価値のあること」の対価として得られることの理解につなげる。</li> <li>・集めた模擬通貨の枚数を数え、記録する。</li> <li>・目標に向かってお金を貯める「貯金」という方法があることを期待感を持たせて伝える。</li> </ul>
	<p><b>【環境設定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。</li> <li>・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にします。</li> </ul> <p><b>【活動使用教材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬貨幣(ポーカーチップ)</li> <li>・おしごとカード(写真・イラスト)</li> <li>・ホワイトボード</li> <li>・ホワイトボードマーカー</li> </ul> <p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが取り組みやすい「おしごと」(例:おもちゃの整理、掃除など)の具体的な内容を提示したおしごとカードを作成する。</li> <li>・おしごとの内容によって、対価(模擬貨幣)に差をつけておく(例:難しいおしごとは対価を多くする)。</li> </ul>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、「どうすればお金は手に入るか」について考え、子どもたちから「働く」「お手伝いをする」といった意見が出た。実施者から「働くこと」や「何かをすること」で対価としてお金を得られることを伝え、「おしごと体験」につなげた。</p> <p>・展開では、用意されたおしごとカード(おもちゃの整理、掃除など)から、子どもたちが自分でしたいおしごとを選び、事前に提示された対価(模擬貨幣)を確認した。おしごとを実践する際には、真剣に取り組み、「誰かの役に立っている」という実感を伴った対価として模擬貨幣を受け取っていた。</p> <p>・まとめでは、活動を振り返り、「おしごとは大変だったけど楽しかった」「誰かの役に立てて嬉しかった」といった意見や、「お金をもらえて嬉しい」という素直な気持ちが発表された。実施者との関わりを通して、お金は単に手に入るものではなく、「誰かの役に立つこと」や「価値のあること」の対価として得られることを理解した。</p>	<p><b>【子どもの姿・声】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おしごとを選ぶ際、「〇〇さんは難しいおしごとだから、お金がたくさんもらえるんだね」と、おしごとの難易度と対価の関連性について気づく姿が見られた。</li> <li>・おしごを終えた後、「おもちゃがきれいになって気持ちがいいね」「みんなに喜んでもらえて嬉しい」など、お金を得ることだけでなく、「誰かの役に立った」とことへの喜びを言葉にしていた。</li> <li>・お金を受け取った時、「これで〇〇(欲しいもの)が買えたらいいね！」と、お金を使うことへの期待を膨らませている姿が見られた。</li> </ul> <p><b>【保育者との関わり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの発言は否定せずすべて受け止め、「なぜそう思ったのか」と深く問いかけ、働くことの価値や対価の意味を考えられるよう援助した。</li> <li>・おしごとの対価に差をつけることで、働くことには様々な価値があることに気づけるよう意識した。</li> <li>・おしごとをやり遂げたこと、誰かの役に立ったことを具体的に承認し、お金を得る喜びと働くことの意義を同時に感じられるよう配慮した。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・お金を得る体験を通じて、子どもたちは「お金＝労働の対価」という概念を感じることができた。特に、「誰かの役に立つこと」「おしごとをやり遂げること」が、お金を得ることと同じくらい、あるいはそれ以上に喜びをもたらすという気づきは、働くことの意義を理解する上で非常に重要だと感じた。</p> <p>・おしごとの内容によって対価に差を設けたことが、「働くことには様々な価値がある」という気づきを生むきっかけとなり、子どもたちの探究心を深める上で有効だった。</p>	<p>普段の生活の中で保護者と一緒に買い物をしたり、お金は見た事もあって身近な物ではあるが、お金の種類やそれぞれの価値について、知る事でよりお金の大切さも理解できたようでよかった。実際にお金について知りつつ、みんなで買い物に行ってみるまでの一連の経験ができるとより社会性も身に付ける事ができると思うので今後の活動に生かしてほしい。事前にお金のレプリカを用意していたので子ども達もわかりやすくよかったと思う。</p>